

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	足立 祥
論文担当者	主 査                      新村 健
	副 査                      松永 寿人
	副 査                      若林 一郎
学位論文名	Factors for inhibition of early discharge from the psychiatric emergency ward for elderly patients (高齢者精神科救急治療病棟において早期退院を阻害する因子)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>高齢化に伴い精神科領域の救急診療における高齢者患者数は増加している。高齢者精神科領域においても急性期化や、早期退院の必要性が指摘されているが、本邦には救急に特化して対応できる病棟を持つ施設は少なく、高齢精神科入院患者では入院期間が長くなる傾向がある。よって本研究では、高齢者精神科救急を専門とする病棟への入院患者において、早期退院を阻害する因子について検討を行った。</p> <p>2015年5月から2016年4月の間に高齢者精神科救急病棟に入院した患者208名を対象とした。すべての患者の入院前に重篤な内科疾患の合併を除外した。3か月以内に自宅、施設に退院した群を「早期退院群」、3か月以内に退院できなかった、他病院への転院または死亡退院した群を「非早期退院群」とした。年齢、body mass index (BMI)等の基本情報、生化学検査結果、心理検査、入院中の行動制限等の24因子について比較し、非早期退院と関連因子との関係を明らかにするため多重ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>対象患者の年齢は79.1±7.8歳で、ICD-10に基づく主病名F0群「症状性を含む器質性精神障害」が74.0%と最も多かった。早期退院群153名と比べ非早期退院群55名ではBMIおよび血清アルブミン値(ALB)が有意に低く、CRP&gt;0.5 mg/dlの割合や入院中に隔離・拘束が使用された割合が有意に高かった。多変量解析結果では非早期退院に有意に関連する因子は、入院時のBMI≤17.5kg/m<sup>2</sup>、ALB≤30g/L、隔離・拘束の使用であった。</p> <p>BMI≤17.5kg/m<sup>2</sup>、ALB≤30g/L、CRP&gt;0.5 mg/dlの3因子を入院時リスク因子と設定し、年齢及び入院中の隔離・拘束の使用を調節したところ、リスク保有数が増えると非早期退院となるオッズ比が大きくなった。</p> <p>本研究は、高齢者精神科領域における緊急入院患者において早期退院を阻害する因子を明らかにしたことから、今後本邦において高齢精神科救急患者の早期退院を推進していく上で極めて有用な研究であり、学位に値するものと評価した。</p>	